

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2008

課題番号：18520132

研究課題名(和文) 人形浄瑠璃「かしら」のうなづき構造成立に関する研究

研究課題名(英文) Origin of the nodding style in kasiras of Ningyo Joruri Puppet Theater

研究代表者

大谷津 早苗 (OYATSU SANAE)

昭和女子大学・生活機構研究科・准教授

研究者番号：40255899

研究成果の概要：本研究は、人形浄瑠璃において人形表現の根本をなすうなづき構造の成立の問題を解き明かそうとするものである。人形戯発生時のかしらのうなづき構造にはどのような意味があったのだろうか。それは日本人の発想か、大陸伝来の考え方によるものか。この問題を解決するために、民俗行事の人形戯や一人遣い人形等の三人遣い以前の人形、及び大陸伝来といわれる糸操り人形や串人形、指人形等の三人遣い以外の人形の調査・記録・基礎データの収集を行い、それをもとに考察をしていく。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	600,000	0	600,000
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
総計	1,700,000	330,000	2,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：芸能、文化史、比較文化、演劇、人形劇、文楽、文学、民俗

1. 研究開始当初の背景

本研究課題に入る以前、平成10年～17年の8年にわたって科学研究費補助金を得、「人形浄瑠璃の発生と展開に関する研究—地方の人形浄瑠璃のかしらを資料として—」という課題に取り組んできた。この課題は、今まで資料的価値を認められてこなかった地方の人形浄瑠璃のかしらに注目し、地方のかしらを資料として人形浄瑠璃の発生と展開の

問題を解き明かそうとしたものである。当時、全国を視野に入れての、かしらの全国調査は行なわれていなかったが、考察の前提としてかしらの全国調査を行い、全国約180箇所、4700点あまりのかしらのデータを収集した。そのかしらデータをもとに主に取り組んできたのが人形表現上重要な意味を持つと思われる、かしらのうなづき構造の発展過程に

関する問題である（平成 12～14 年度同研究課題報告書 A4 版 190 頁，平成 15～17 年度同研究課題報告書 A4 版 132 頁参照）。

ここではまず三人遣いにおける発展段階を予想し、一つの仮説を立てた。それは、三人遣いかしらの主なうなづき形式には「引栓式」「小猿式」「ブラリ式」があるが、各形式の分布状況を民俗学の周囲論で解釈することで、「引栓式」はごく新しい形式で、「小猿式」はその前の時代の操り方であり、「ブラリ式」は「小猿式」が近代になってから変形したもの、といううなづき形式の前後関係についての仮説である。そして、更に一人遣いから三人遣いへ移行する過程に存在し、一人遣いから三人遣いへまたがるうなづき形式ではないかと推測したのが、もう一つのうなづき形式「偃齒棒式」であった。「偃齒棒式」は一人遣いのかしらにも存在した最初の段階のうなづき形式と考えている。

うなづき形式は「偃齒棒式」から「小猿式」へ、そしてその次の「引栓式」へと展開するにしたがって、人形表現はより写実的で繊細な方向へと発展し、「引栓式」の文楽人形に至ってはまるで人間のような表現を完成した。うなづきの作用は人形表現の根本であり、うなづきは人形芸にとって最も重要な構造であることを先の研究課題に取り組む中で確信するに至った。

2. 研究の目的

本研究課題に入る以前の課題「人形浄瑠璃の発生と展開に関する研究—地方の人形浄瑠璃のかしらを資料として—」を研究する中で、新たな問題も派生してきた。うなづき構造の成立とその意味についての問題である。この問題を考究することは人形戯の意味由来や人形操りの発生の問題を考えることにも繋がるであろう。一人遣い以前、人形戯発生時のかしらのうなづき構造にはどのよう

な意味があったのだろうか。単なる肯定表現でないことは、うなづきの初期形式である「偃齒棒式」のうなづき方及びうなづき構造が物語っている。この初期のうなづき形式には本来何か別の意味があったのではないだろうか。そして、更なる疑問点、うなづき構造はもともと日本人の発想によるものなのか、大陸伝来の考え方によるものなのだろうか、という問題もある。本研究課題はこの問題を解明することを目的としている。

3. 研究の方法

この問題を解決するための資料としては、民俗行事の人形戯や一人遣い人形等の三人遣い以前の人形、及び大陸伝来といわれる糸操り人形や串人形、指人形等の三人遣い以外の人形に注目し、まず、それらの調査・記録・基礎データの収集等を行う。更に中国の串人形（まずは国内に所蔵のもの）のかしらも比較資料として調査研究を行う。一人遣いの人形のかしらや大陸伝来との説もある日本の糸操り人形・串人形の、完全な資料収集や操り方の調査・記録、その意味の解明は現在非常に遅れている。アジアの人形戯についての調査研究も十分ではない。次の4. (1)研究成果①資料調査は現在の調査研究段階を一步進めるものと思う。本課題研究はこれらを材料として問題に解明に取り組む。

4. 研究成果

(1) 主な資料調査・記録(平成 20 年 3 月現在)

①一人遣い人形

石川県白山市東二口の文弥節人形浄瑠璃のかしら調査及び映像記録・石川県白山市深瀬でくまわしのかしら調査・新潟県佐渡市のろま人形文弥節人形浄瑠璃のかしら調査及び映像記録・宮崎県都城市(旧北諸県郡山之口町麓)文弥節人形浄瑠璃のかしら調査・鹿児島

島県薩摩川内市（旧薩摩郡東郷町文弥節人形
浄瑠璃のかしら調査

②糸操り人形

島根県益田市益田糸操り人形のかしら調査・島根県出雲市大社町の糸操り人形のかしら調査・山口県柳井市伊陸糸操りの人形のかしら調査・山口県柳井市豊笑座糸操りの人形のかしら調査・山口県周南市（熊毛郡熊毛町）安田糸操りの人形のかしら調査

③串人形

埼玉県秩父郡荒川村白久串人形のかしら調査と演目映像記録・埼玉県飯能市落合人形のかしら調査・島根県益田市向横田浄瑠璃会人形のかしら調査・山口県防府市大道人形のかしら調査・山口県山口市（旧佐波郡徳地町）徳地人形浄瑠璃のかしら調査

④指人形

山形県東村山郡山辺町の山辺人形のかしら調査・埼玉県秩父郡横瀬町横瀬人形芝居のかしら調査・岐阜県養老郡養老町室原文楽のかしら調査・福島県喜多方市入田付のふくさ人形のかしら調査・高知県立歴史民俗資料館蔵岡本人形・島田人形のかしら調査・高知県土佐市福本人形のかしら調査

⑤民俗行事の人形戯

茨城県つくばみらい市小張松下流綱火の演目映像記録・茨城県日立市日立風流物の人形のかしら調査・山梨県甲府市小瀬町天津司の舞のかしら調査・滋賀県大津市大津祭の山車人形の映像記録・大分県中津市古要神社の傀儡子の舞と相撲の映像記録・福岡県築上郡吉富町八幡古表神社の細男舞と神相撲の映像記録

⑥アジアの人形

三重県松阪市個人蔵中国の串人形のかしら調査

(2) 考察の概要

うなづきの初期的構造と意味については、

「人形に見る身体技法一日中の比較から一」（平成 18 年 6 月『神奈川大学 21 世紀 COE プログラムシンポジウム報告 2 非文字資料とはなにか ～人類文化の記憶と記録～』所収）等で述べている。次に、その概要を記す。

本論文では、人形芝居の発生に関わる宗教的存在として人形三番叟を取り上げ、その基本的表現やかしらの特徴を考証し人形式三番の成立の問題を考察した。その結果人形三番叟は、Ⅰ踏む動作、Ⅱ赤色の彩色、Ⅲ表情変化（笑いの表情から返り目・口開というからくりによる威嚇の表情へ）、Ⅳ「偃齒棒式」という最も初期段階の上を向くうなづきの形式を持つ、ということが判明した。これは日本における人形及び人形戯の根本・起源を物語るものであろうとの推察した。更に、この日本の宗教的人形及びその人形戯が日本独自のものなのか、それとも外来のものなのかという問題を考えるために外国の事例と比較を行った。まず中国の串人形（国内個人蔵）の調査を実施し、中国の人形調査データは少ないものの、現時点で比較すると、ⅠからⅢの特徴は知る限り中国の人形にも事例が見られるが、Ⅳのうなづき形式は中国の人形にあまり見られなかった。日本の人形はうなづき形式を何段階にもわたってより写實的に繊細に表現できるよう発展させるが、中国の人形はそうではない。うなづき形式は日本人が考え出した日本の人形芝居の特徴であり、ひいては日本文化の特徴をも示すものではないか、との仮説に至った。

ここで述べたように、うなづきの初期的構造が本来の意味を物語るが、その初期的構造である「偃齒棒式」のうなづき動作は顔が上を向くという点に特徴があった。これは単にうなづきという写實的表現のためとは考えにくい。顔を上に向けること＝宗教表現と解釈される民俗事例が少数ながら存在したこ

とから、「偃齒棒式」の上を向くうなづき動作も何らかの宗教表現ではないかと考えた。うなづき構造は元来信仰から発し、初期段階では宗教的意味を持っていたのではないかと推論する。さらに、中国の串人形との比較を通じて、日本の人形はうなづき形式を何段階にもわたってより写實的に繊細に表現できるよう発展させるが、中国の人形にあまり見られなかった。よって、うなづき形式は日本人が考え出した日本の人形芝居の特徴であり、ひいては日本文化の特徴をも示すものではないとも現時点で推察しているところである。

(3) 本研究及び研究成果の独創性

本課題研究は、今まで取り上げられなかった「かしら」のうなづき構造という点に注目し、うなづき構造の方面からの研究である点にまず一つの独創的な点がある。うなづき構造の歴史、特に成立の問題を考える本研究における手がかりとして、民俗行事の人形戲や一人遣い人形等の三人遣い以前の人形、及び大陸伝来といわれる糸操り人形や串人形、指人形、更にアジアの人形戲を取り上げるが、今までに人形浄瑠璃の「かしら」とこれらの資料を結びつけて総合的に研究されたことはなかった。人形操りの発生の問題についても、今までは主に文献をもとに考えられてきた。一方で民俗の中の人形戲は民俗として研究されるのみで、人形操りの歴史と結びつけて考えられたことはなかった。民俗行事の人形戲や一人遣い人形等の三人遣い以前の人形、及び大陸伝来といわれる糸操り人形や串人形、指人形、更にアジアの人形戲等を総合的に研究することで、うなづき構造の発展過程、ひいては人形戲や人形操りの発生の研究に一つの新たな局面を開いたものと思う。文献を主とした研究や文学として、また民俗

として個々に行なわれてきた従来の研究では解明できない空白部分を埋められる可能性を有している点に本研究の意義がある。

(4) 国内外における位置付け

本研究は、文学・文化史学・民俗学・比較文化にまたがる研究である。たとえば文学としては、うなづき構造の成立と発展過程研究は人形浄瑠璃の演劇的研究への新たなアプローチになるはずである。また、世界の中で人形戲・人形芝居を保持している民族は多い。特にアジアの人形戲・人形芝居は日本の人形戲・人形芝居と歴史的関係がある。日本の人形戲・人形芝居研究をもとにアジアの人形戲・人形芝居と比較をすることで、民族文化の特色を明らかにすることができるであろう。今後更に本研究を進めることで、この他各方面においても新たな局面を開くものと思う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

①大谷津早苗 「人形浄瑠璃の三人遣い成立に関する研究—群馬県渋川市赤城町津久田人形資料より—」 『昭和女子大学生活機構研究科紀要』 Vol.16-2 P147～158 2007年 査読有

〔学会発表〕(計1件)

①大谷津早苗 文楽と地方の人形芝居 昭和女子大学文化史学会 2007.7.21 昭和女子大学

〔図書〕(計4件)

①大谷津早苗 『博士論文 人形浄瑠璃の発生と展開に関する研究—各地の人形浄瑠璃のかしらを資料として—』 2007 総313頁

②大谷津早苗他 26名 『神奈川県民俗芸能—神奈川県民俗芸能緊急調査報告書—』 神奈川県教育委員会 106～110頁 2006

③大谷津早苗他 22名 『神奈川大学21世紀COEプログラムシンポジウム報告2 第1回国際シンポジウム 非文字資料とはなにか～人類文化の記憶と記録～』 神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議 68～77頁 2006

④大谷津早苗 『平成15～17年度科学研究費

補助金基盤研究(C)研究成果報告書『人形浄
瑠璃の発生と展開に関する研究』 総 132 頁
2006

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大谷津 早苗 (OYATSU SANAE)

昭和女子大学・生活機構研究科・准教授

研究者番号：40255899